

# 「教育サービス面における社会貢献」評価報告書

(平成12年度着手 全学テーマ別評価)

九州芸術工科大学

平成14年3月

大学評価・学位授与機構



## 大学評価・学位授与機構が行う大学評価

### 大学評価・学位授与機構が行う大学評価について

#### 1 評価の目的

大学評価・学位授与機構（以下「機構」）が実施する評価は、大学及び大学共同利用機関（以下「大学等」）が競争的環境の中で個性が輝く機関として一層発展するよう、大学等の教育研究活動等の状況や成果を多面的に評価することにより、その教育研究活動等の改善に役立てるとともに、評価結果を社会に公表することにより、公共的機関としての大学等の諸活動について、広く国民の理解と支持が得られるよう支援・促進していくことを目的としている。

#### 2 評価の区分

機構の実施する評価は、平成 14 年度中の着手までを段階的実施(試行)期間としており、今回報告する平成 12 年度着手分については、以下の 3 区分で、記載のテーマ及び分野で実施した。

全学テーマ別評価（「教育サービス面における社会貢献」）

分野別教育評価（「理学系」、「医学系（医学）」）

分野別研究評価（「理学系」、「医学系（医学）」）

#### 3 目的及び目標に即した評価

機構の実施する評価は、大学等の個性や特色が十二分に発揮できるよう、当該大学等の設定した目的及び目標に即して行うことを基本原則としている。そのため、大学等の設置の趣旨、歴史や伝統、人的・物的条件、地理的条件、将来計画などを考慮して、明確かつ具体的な目的及び目標が設定されることを前提とした。

### 全学テーマ別評価「教育サービス面における社会貢献」について

#### 1 評価の対象

本テーマでは、大学等が行っている教育面での社会貢献活動のうち、正規の課程に在籍する学生以外の者に対する教育活動及び学習機会の提供について、全機関的組織で行われている活動及び全機関的な方針の下に学部やその他の部局で行われている活動を対象とした。

対象機関は、設置者（文部科学省）から要請のあった、国立大学（政策研究大学院大学及び短期大学を除く 98 大学）及び大学共同利用機関（総合地球環境学研究所を除く 14 機関）とした。

各大学等における本テーマに関する活動の「とらえ方」、「目的及び目標」及び「具体的な取組の現状」については、「教育サービス面における社会貢献に関する目的及び目標」に掲げている。

#### 2 評価の内容・方法

評価は、大学等の現在の活動状況について、過去 5 年間の状況の分析を通じて、次の 3 項目の項目別評価によ

り実施した。

- 1) 目的及び目標を達成するための取組
- 2) 目的及び目標の達成状況
- 3) 改善のためのシステム

#### 3 評価のプロセス

大学等においては、機構の示す要項に基づき自己評価を行い、自己評価書（根拠となる資料・データを含む。）を機構に提出した。

機構においては、専門委員会の下に、専門委員会委員及び評価員による評価チームを編成し、自己評価書の書面調査及びヒアリングの結果を踏まえて評価を行い、その結果を専門委員会に取りまとめた上、大学評価委員会で評価結果を決定した。

機構は、評価結果に対する意見の申立ての機会を設け、申立てがあった大学等について、大学評価委員会において最終的な評価結果を確定した。

#### 4 本報告書の内容

「対象機関の現況」及び「教育サービス面における社会貢献に関する目的及び目標」は、当該大学等から提出された自己評価書から転載している。

「評価結果」は、評価項目ごとに、特記すべき点を「特に優れた点及び改善点等」として記述している。

また、「貢献（達成又は機能）の状況（水準）」として、以下の 4 種類の「水準を分かりやすく示す記述」を用いている。

- ・ 十分に貢献（達成又は機能）している。
- ・ おおむね貢献（達成又は機能）しているが、改善の余地もある。
- ・ ある程度貢献（達成又は機能）しているが、改善の必要がある。
- ・ 貢献しておらず（達成又は整備が不十分であり）、大幅な改善の必要がある。

なお、これらの水準は、当該大学等の設定した目的及び目標に対するものであり、相対比較することは意味を持たない。

また、総合的評価については、各評価項目を通じた事柄や全体を見たときに指摘できる事柄について評価を行うこととしていたが、この評価に該当する事柄が得られなかったため、総合的評価としての記述は行わないこととした。

「評価結果の概要」は、評価結果を要約して示している。

「意見の申立て及びその対応」は、評価結果に対する意見の申立てがあった大学等について、その内容とそれへの対応を示している。

#### 5 本報告書の公表

本報告書は、大学等及びその設置者に提供するとともに、広く社会に公表している。

## 対象機関の現況

(1) 機関名及び所在地

- ・機関名 九州芸術工科大学
- ・所在地 福岡市南区塩原4丁目9番1号

(2) 学部及び研究科の構成

- ・学部 芸術工学部  
環境設計学科, 工業設計学科, 画像設計学科, 音響設計学科, 芸術情報設計学科
- ・研究科 芸術工学研究科  
芸術工学専攻博士課程

(3) 教育サービスを行っている附属施設名

- ア 附属図書館
- イ 情報処理センター
- ウ 芸術工学共同研究センター(地域共同研究センター)
- エ 保健管理センター
- オ 体育館, 運動場

(4) 学生総数 1,253名(平成13年4月1日現在)

- 内訳 学部生 943名
- 大学院生 310名(博士前期課程216名, 博士後期課程94名)

(5) 教員総数(現員)100名

- 内訳 教授 39名
- 助教授 38名
- 講師 2名
- 助手 21名

(6) 本学の設置理念

本学は、わが国初の芸術工学部を擁する大学として、昭和43年4月福岡市に創設され、現在教官数が100名の単科大学である。

本学は、設立の理念(目的)を明確にして開学されたが、その理念(目的)とは、次のようなものである。

「本学は、技術を人間生活に適切に利用するために、技術の基礎である科学と人間精神の最も自由な発現である芸術とを総合し、技術の進路を計画し、その機能の設計について研究するとともに、人文、社会、自然にまたがる知識と芸術的感性を基盤とする設計家を養成することを目的とする。」

この「芸術工学」の理念を具体化するキーワードとして、本学は“技術の人間化”を標榜している。

すなわち、近代の科学技術は、それぞれの分野の専門分化によって著しく進展し、その結果各種の産業分野に未曾有の技術革新を招来し、生産の方式を根本から変革すると共に、我々の日常生活にも、画期的な変化を与えてきた。このことは勿論いわゆる文明の恩恵に浴するものとして喜ぶべき面を多々持っているのであるが、それと同時に、時として「技術」の独走におちいり、いわゆる人間疎外の現象が現れていることもまた否定できない。

このような現象を回避し、「技術」をその本来あるべき位置に正しく据え、且つ如何に機能させるかということは、技術を特色とする現代文明最大の課題の一つであると言って良いであろう。この問題の解決は、極めて困難であるとともに、その方途は多岐にわたることは言うまでもない。

これら多岐にわたる問題解決の方途のうち、当面最も重要なことは、「技術の人間化」である。技術の人間化とは、一つには、技術の発展自体を人間的基準に立脚して進めることであり、二つには、技術の発展を人類の福祉と人間生活の一層の充実のために役立てることである。言い換えれば、技術の基盤である「科学」と、人間精神の最も自由な発現である「芸術」とを総合し、その全体的な精神によって、技術の進路を計画し、その機能を設計する、すなわち、きわめて高次の設計を確立することである。

本学の使命は、この問題を深く研究するとともに、その研究に基づいて有為な人材を育成して世に送り出すことである。このような観点から、本学においては、技術の可能性を研究するとともに、科学的な思考と芸術的な陶冶に基づいて、「技術の人間化」を達成するための適切な教育体系の樹立を常に模索している。すなわち、現代技術の核心をなす工学を中心として、一方では数学、物理、化学等の自然科学及び歴史、芸術、社会、経済等の人文、社会科学の研究を併せて行い、これらの知識的、思考的教育と併行して、実験・実習による技術体験と芸術体験とを与えることによって、思考と行動との統一を図り、真に創造力のある人材の育成を目指している。

## 教育サービス面における社会貢献に関する目的及び目標

### 1. 教育サービス面における社会貢献に関する考え方

本学が果たすべき役割は、.において述べた本学の理念に基づいた教育活動（芸術工学の精神を基盤とする設計家の養成）と研究活動（技術の進路計画と機能の設計に関する各種研究の実施）に加えて、“理念”に基づく「社会貢献活動」が極めて重要であると捉えている。この社会貢献活動は、本学の設立理念の社会への普及という点を特に強調すべきであると従来から認識してきた。今後は、この面の活動に更に努力をするべきであると考えられる。

この自己評価を機に、本学が果たすべき社会貢献活動の位置付けを改めて明確にするために、先ず社会貢献活動を、正規生に対する日常的教育活動と教官の専門性に基づく日常の研究活動を除き、本学がその教育・研究機能を発揮して、社会に向けて行う種々の活動であると捉える。その全体は、

- a 生涯学習等、正規生以外の人々に対する芸術工学の分野での教育的社会貢献
- b 本学が所有する物的教育資源の社会への開放を通じた正規生以外の人々に対する学習機会の提供
- c 企業等との共同研究の推進等を通じた芸術工学に関する研究面での社会貢献
- d 国、地方公共団体の審議会等への芸術工学分野に関する専門的立場からの参画による社会貢献

に分けて捉えることができる。今回の自己評価においては、a、bが特に評価の対象となると考える。

本学が創設以来掲げている「芸術工学」の理念の具体化である“技術の人間化”の基となる学問的テーマは、特定地域に限られるものではなく、また永遠の課題でもあることから、本学は前述のaからdのいずれの社会貢献においても、基本的には国内外を通じて幅広く貢献するという使命を有している。しかし今回の自己評価の対象である「教育サービス面における社会貢献」としてのaとbに関しては、その性質上、サービスの対象は主として地域社会及びその周辺に限られる。

その具体的活動は、以下に示すようなものであるが、これらの活動は全て学長の諮問機関である「企画運営委員会」の統括の下に行われている。

・教育活動に関するものとして；

科目等履修生制度、公開講座、講演会・セミナー等、大学等地域開放特別事業、勸進企画、保健衛生上の啓蒙(意識向上)活動

・学習機会の提供に関するものとして；

図書館の開放、卒業研究展、研究室の公開、体育施設の開放である。

これらのうち“保健衛生上の啓蒙活動”及び“体育施設の開放”は別として、他はいずれも本学設置の理念を踏まえて、本学の特色を発揮した社会貢献をなすべきものである。

### 2. 教育サービス面における社会貢献に関する目的及び目標

#### (1) 目的

「教育サービス面における社会貢献」の“捉え方”は1.に記述した通りであるが、この「社会貢献」の“目的”は本学の「理念」のもとに具体的に「芸術工学」の啓蒙・啓発・普及等を通して社会へ直接働きかけ、より良い社会の発展を期することである。

「教育サービス面における社会貢献」の“目的”は、で述べた本学の使命を正規生以外の人々に対して実行するものである。最近の社会状況を踏まえて、この“目的”をより具体的に説明しよう。

最近の社会状況及び価値観は大きく変化し、「技術の人間化」という本学の基本理念はますます重要性を増している。資源・エネルギーの大量消費や開発主義による地球環境の汚染や破壊、高度情報通信社会の到来、更には、高度化技術と人間との不適合が問題とされるようになってきた。そのため本学は「人間化」の概念を深化させ、「自然界における人間の位置」の再認識を迫り、「持続可能な環境共生社会、健全な高度技術化社会を念頭に置いた人間化」を目指す必要がある。深化された「技術の人間化」を基に、技術の進路を設計し、その機能を設計する「高次のデザイナー」の道は、高度化、複雑化、多様化した今日の社会において決して容易ではなく、極めて困難であるが、人類の未来を考えれば、芸術工学の果たすべき役割は極めて重要であると認識する。

幅広く深い教養と総合的な判断力を有し、高次の計画・設計活動を実践する基礎的能力を備えた創造性豊かな人材の育成という社会的要請に応えるべく、芸術工学の特性を踏まえた教養教育と専門教育の有機的連携による教育機能の強化を図るとともに、芸術工学分野における新しい時代の要請を踏まえた学問体系を構築するため、本学の学部の5学科はそれぞれ「文化・人間科学」「計画・設計」「科学・技術」の3領域に関する専門分野で構成されており、各分野の専門性と役割分担を明確にし、

教育研究機能の向上を図っている。一方、芸術工学の高度な専門家を養成する大学院では、学問分野の深化と高度化とに対応するとともに、芸術工学の総合性に対応するために、芸術工学研究科を「芸術工学専攻」という1専攻として社会的要請に応えることとしている。

本学は創設以来改革を重ねつつ、芸術工学という総合的な専門分野を探求し、高次のデザインに向けて教育研究を進めてきたが、一方で福岡市の都心に近いという地理的特色を活かし地域のデザイン関連産業との連携を進めてきた。

以上要するに「教育サービス面における社会貢献」の“目的”は、芸術工学の理念と方法を社会に普及させることによって、より良い社会の構築に資することである。

## (2) 目標

「教育サービス面における社会貢献」の目標は、(1)で述べた「目的」を達成するために、「技術の人間化」の基礎となる分野の教育及びその学習機会の提供、「技術の人間化」の方法に関する教育及びその学習機会の提供、更には研究成果の紹介を行うことである。

具体的には

- A 芸術工学（技術の人間化）に関する啓蒙・啓発
  - B 芸術工学（技術の人間化）に関する知識の提供
  - C 芸術工学（技術の人間化）に関する技術の提供
  - D 芸術工学（技術の人間化）に関する先端的研究の紹介
- である。

教育の対象者としては、小・中学生、高校生、社会人一般（含他大学学生）、専門職業人（デザイナー、技術者）等の様々な取り上げ方があるが、提供するサービスによって、これらの人々が適切に選択できるように企画・広報活動等を行う。このことによって、正規生以外の各立場の人々の要求に対応することを心がける。

この目標は次に掲げる諸活動を通してその達成を図る。

科目等履修生制度、公開講座、講演会・セミナー等、大学等地域開放特別事業、勤進企画による教育活動、及び図書館の開放、卒業研究展、研究室の公開による学習機会の提供

---

## 3. 教育サービス面における社会貢献に関する取組の現状

---

1の「とらえ方」と2の「目的及び目標」のもとに本学が実施している「教育サービス活動」の現状を述べる。

### (1) 教育活動に関するもの

#### ア 科目等履習生の受け入れ

芸術工学に関する授業を学外者に提供するために、本

学「科目等履習制度」に則って広く市民の受講を受け入れている。

#### イ 公開講座

本学「公開講座実施に関する基本方針」に基づいて、市民を対象とした公開講座を実施している。これは本学が持っている専門的、総合的な教育・研究機能を社会に開放することにより生活上、職業上の知識、技術及び一般的教養を身につけるための学習の機会を広く社会人に対して提供し、地域における生涯学習の機会の一つとして行っているものである。

上記の本学公開講座の他に、地域の大学と連携して“福岡都市圏 17 大学連携公開講座”に積極的に参加している。これは福岡市都市圏の大学が、それぞれの特色を生かした講座を開き、市民の生涯学習の一つの機会を与えるものである。本学は芸術工学に関わる種々のテーマで講座を開設している。

#### ウ 講演会・セミナー等

平成9年度に“地域共同研究センター”が開設され、同センターの客員教授による講演会を開催している。内容は芸術工学、デザイン等に関係の深い知識・経験を有する客員教授が、得意の分野で講演・セミナーを行う。特に産学連携を意図した内容のものを多く委嘱している。

上記の他、情報処理センターにおいてもセミナーを開催している。

#### エ 大学等地域開放特別事業

文部省が平成11年度から国立大学等の教育施設を地域に開放して、学校休業日の土曜日などに子供たちが日頃体験出来ない機会を与えようとして提唱した企画である。

本学も11年度から、この主旨に則って、本学の特色を生かした事業を実施している。

#### オ 勤進企画

本学創設以来、学生の課外活動の一環として、教官の協力のもとに、学生が企画・立案して実行され、学内外へ向けて講演会等を行ってきた。これは本学「課外教育企画「勤進」実施要項」に基づいて実施されている。“勤進”とは自らが良き目的のために多くの人智を集めて事を行うことであり、その意味で本学が知識・知恵、技術を市民に提供する場を設定することを意味し、本学初代学長の提案に端を発している。

### (2) 学習機会の提供に関するもの

#### ア 図書館の開放

本学「九州芸術工科大学附属図書館一般市民等利用内規」に基づいて、本学図書館を利用に供している。学外者に対しては館内閲覧及びコピーサービスであり、また学外からのネットによる情報検索も可能である。

#### イ 卒業研究展

卒業研究展は学生の学習意欲の活性化を図ることは勿論であるが、本学での教育・研究の成果を広く社会に公開することによって、本学の特色と教育内容の理解を社

会に広め、高校生等への教育効果をねらうものである。毎年学外から他大学学生、高校生を含め多くの来会者がある。

開催場所は、福岡都心部の施設を使用する場合と、本学内施設を使用する場合とがある。時期は年度末であり、パネル・モデル等の展示、ポスター展示、A V展示、公開研究発表（口頭発表）等である。

#### ウ 研究室の公開

本学では研究室の公開を“学園祭”と、受験生への“大学説明会”の時期に行っている。前者は小学生から他大学学生及び一般市民に広く学習の機会を提供するものであり、後者は特に高校生(受験生)及び高校教員に本学の教育研究活動を知ってもらおうという意図である。

## 評価結果

### 1. 目的及び目標を達成するための取組

九州芸術工科大学においては、「教育サービス面における社会貢献」に関する取組として、科目等履修生の受入れ、公開講座、講演会・セミナー等、大学等地域開放特別事業、勸進企画、図書館の開放、卒業研究展、研究室の公開などが行われている。

ここでは、これらの取組を「目的及び目標を達成するための取組」として評価し、特記すべき点を「特に優れた点及び改善点等」として示し、目的及び目標の達成への貢献の程度を「貢献の状況（水準）」として示している。

#### 特に優れた点及び改善点等

公開講座は、活動の内容・方法等について広報委員会で検討を行い、企画運営委員会において全学的な観点から検討し、大学の有する専門的、総合的な教育・研究機能を社会に開放することにより、生活上・職業上の知識、技術及び一般的教養を身につけるための学習の機会を広く提供している。

また、講演会・セミナー等は、芸術工学共同研究センターの客員教授を中心に、より多様な内容で実施している。

これらの取組は、大学の特色を生かした多様な内容が含まれた優れた取組である。

福岡市都市圏の大学がそれぞれの特色を生かした講座を開く「福岡都市圏 17 大学連携公開講座」は、広報委員会のもとに芸術工学に関わる種々のテーマで講座を開設しており、市民に生涯学習の機会を与える特色ある取組である。

大学等地域開放特別事業においては、地域の子どもたちに対して日頃体験できない芸術工学の特色ある体験を通じた学習機会を提供するため、企画運営委員会を通じて全教職員に対して実施のための具体案を募集する形で行っている点は、実施方法に特色のある取組であるが、教員の関心がまだ不十分である点に改善の余地もある。

勸進企画は、大学創設以来、学生の課外活動の一環として、教官の協力のもとに学生が企画・立案し、学内外へ向けて講演会等を行っており、大学の人的資源を有効に活用した特色ある取組である。

卒業研究展は、学生の学習意欲の活性化を図るととも

に、大学での教育・研究の成果を広く社会に公開するため、卒業研究展実施連絡会において、福岡都心部の施設や大学内施設を利用して実施しており、大学の特色と教育内容の理解を社会に広めるための特色ある取組である。

各活動の広報については、「公開講座」、「大学等地域開放特別事業」、「勸進企画」、「卒業研究展」において、関係する機関へ募集案内などを送付するほか、近隣市町の市政だより等への掲載依頼、報道関係機関への報道依頼等を行っているが、「講演会・セミナー」については、県内企業・地方公共団体に案内をしているものもあるが、多くは学内掲示とホームページによる案内にとどまっている点は、改善を要する。

#### 貢献の状況（水準）

取組は目的及び目標の達成におおむね貢献しているが、改善の余地もある。



---

## 2. 目的及び目標の達成状況

---

ここでは、「1. 目的及び目標を達成するための取組」の冒頭に掲げた取組の達成状況を評価し、特記すべき点を「特に優れた点及び改善点等」として示し、目的及び目標の達成状況の程度を「達成の状況（水準）」として示している。

### 特に優れた点及び改善点等

科目等履修生の受入れは、会社員、公務員、私立大学学生、無職の者など様々な者を受け入れ、その年齢は23歳から67歳と広い範囲に及んでおり、全履修生が履修した科目全部について単位を修得している点で優れている。

公開講座は、受講者数が募集定員を大幅に上回っている講座から、ほぼ定員を充足している講座があるが、定員を大幅に下回っている講座もある点で改善の余地がある。

しかし、受講者に対するアンケートでは、「満足している」、「普通である」とする回答が、全体の9割を占めていることから、受講者の満足度が高い点は成果を得ている。

講演会・セミナー等は、学外者が参加していない場合や参加していても少ない場合がある点で改善を要する。

大学等地域開放特別事業は、平成11年度から実施したものであり、それぞれ定員を40人とし、その参加者数は、平成11年度34人、平成12年度23人であり、定員を充足するには至っていない点で改善の余地がある。

しかし、参加者のアンケートからは、おおむね好評であり成果を得ている。

卒業研究展は、都心部の施設での開催では、来場者数約1,000人であったが、学内の施設での開催では、来場者数が減少している点は、改善の余地もある。

しかし、アンケート結果からは、展示方法については改善の指摘があるものの、内容については好評であり成果を得ている。

### 達成の状況（水準）

目的及び目標がおおむね達成されているが、改善の余地もある。

---

## 3. 改善のためのシステム

---

ここでは、当該大学の「教育サービス面における社会貢献」に関する改善に向けた取組を、「改善のためのシステム」として評価し、特記すべき点を「特に優れた点及び改善点等」として示し、システムの機能の程度を「機能の状況（水準）」として示している。

### 特に優れた点及び改善点等

各活動は、大学全体で企画運営委員会が総括し、それぞれの活動ごとに関係の委員会等により改善の取組が行われているが、講演会・セミナー等は、学外者が参加されていない場合があるなど、改善の取組が十分行われていない点は改善を要する。

学内外へ向けての講演会等を行う勧進企画は、大学側、学生側双方が参加した勧進企画会議のもと、基本的に学生が企画・立案して実行しており、前年度の反省を行いその結果も考慮した企画をしているが、終了後のアンケート調査などがされておらず、参加者の声の把握などの点に改善の余地がある。

### 機能の状況（水準）

改善のためのシステムがある程度機能しているが、改善の必要がある。

## 評価結果の概要

### 1. 目的及び目標を達成するための取組

#### 特に優れた点及び改善点等

公開講座及び講演会・セミナーは、大学の特色を生かした多様な内容が含まれた優れた取組である。

福岡都市圏 17 大学連携公開講座は、市民に生涯学習の機会を与える特色ある取組である。

大学等地域開放特別事業は、実施方法に特色のある取組であるが、教員の関心がまだ不十分である点に改善の余地もある。

勤進企画は、大学の人的資源を有効に活用した特色ある取組である。

卒業研究展は、大学の特色と教育内容の理解を社会に広めるための特色ある取組である。

講演会・セミナーの広報は、学内掲示とホームページによる案内にとどまっている点は、改善を要する。

#### 貢献の状況（水準）

取組は目的及び目標の達成におおむね貢献しているが、改善の余地もある。

### 2. 目的及び目標の達成状況

#### 特に優れた点及び改善点等

科目等履修生の受入れは、全履修生が履修した科目全部について単位を修得している点で優れている。

公開講座は、受講者数が募集定員を大幅に下回っている講座がある点で改善の余地があるが、満足度が高い点は成果を得ている。

講演会・セミナー等は、学外者が参加していない場合や参加していても少ない場合がある点で改善を要する。

大学等地域開放特別事業は、定員を充足するには至っていない点に改善の余地があるが、参加者のアンケートでは、おおむね好評であり成果を得ている。

卒業研究展は、来場者数が減少している点は、改善の余地もあるが、アンケート結果からは、内容については

好評であり成果を得ている。

#### 達成の状況（水準）

目的及び目標がおおむね達成されているが、改善の余地もある。

### 3. 改善のためのシステム

#### 特に優れた点及び改善点等

各活動は、大学全体で企画運営委員会が総括し、それぞれの活動ごとに関係の委員会等による改善に活用できるシステムがあるが、講演会・セミナー等は、改善の取組が十分行われていない点は改善を要する。

勤進企画は、終了後のアンケート調査などがされておらず、参加者の声の把握などの点に改善の余地がある。

#### 機能の状況（水準）

改善のためのシステムがある程度機能しているが、改善の必要がある。